復旧

自衛隊、警察、消防による救助活動、国土交通省、農林水産省のポンプ車による24時間体制の排水活動など、懸命に復旧作業を行っていただきました。

排水が終わると、ごみや稲わらの処理が復旧の大きな壁となりましたが、自衛隊、大崎市建親会、大崎市消防団、ボランティアの力が結集されたことで、一層、片づけが進みました。稲わらなどをトラックに積み込み、ストックヤードまでの搬入を何度も繰り返し、泥まみれになりながらも復旧に尽力いただきました。

①・②自衛隊員による救助活動、災害ごみの撤去作業（①10月13日撮影、②10月30日撮影）、③・④10月30日から11月1日まで、延べ約130人の大崎市消防団員が、堆積した汚泥・稲わらなどを水路から撤去（10月30日撮影）、⑤陸上自衛隊多賀城駐屯地第22即応機動連隊の皆さんをお見送り（11月1日撮影）、⑥・⑦10月16日から11月15日まで、延べ約2,300人のボランティアが支援（10月18日撮影）。

支援

姉妹都市など、災害時相互応援協定を結ぶ自治体や団体、企業などから多くの人的・物的支援をいただきました。

り災証明書発行にかかる現地調査、避難所の運営、ストックヤード（災害ごみの一時保管場所）の管理など、被災された皆さんの一日も早い生活再建のため尽力いただきました。

また、支援金・見舞金や避難所での寝具、飲料水などの物資の支援まで、企業、団体、学校、個人などからたくさん寄せられました。

皆さまのあたたかい支援・協力に心から感謝いたします。

①ストックヤードに搬入された災害ごみを分別する応援自治体職員（10月30日撮影）、②避難所には、たくさんの団体が炊き出しに訪問（11月7日撮影：山形県最上町社会福祉協議会）、③大阪府田尻町から提供されたテントタイプの間仕切りなど（10月24日撮影）、④宮城野部屋の力士が「ちゃんこ鍋」を振る舞う（11月2日撮影）。

復興

1カ月以上たった今も避難生活を送り、再建の目途がたたない皆さんが多くいます。

各方面からいただいた支援と志に応えるためにも、一日も早い復旧・復興に向けて、国や県などと連携をしながら各種支援事業に取り組んでいきます。

⑤復興応援 鹿島台互市で、鹿島台商業高等学校の生徒が募金を呼びかける（11月10日撮影）、⑥加藤農林水産副大臣が志田谷地地区を現地視察（10月21日撮影）。